

第2表（小）

学校名 清瀬市立清瀬第八小学校

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- ・毎時間、行動目標に即した評価を行い、学びに向かう力を高め、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。
- ・言語能力および読む力の向上を図るために、学校図書館、School-e-library、市立図書館の宅配サービスを積極的に活用するよう指導し、読書活動の充実を図る。
- ・カリキュラムマネジメントの視点で年間指導計画を見直し、思考力・判断力・表現力の育成を重視した指導を行う。
- ・ICT 機器等を活用して、協働的な学びや個別最適な学びの充実を図る。
- ・体力テストの結果等から課題を明確にし、体育の授業を中心に児童の体力向上を図る。
- ・笑顔と学びの体験プロジェクト等による出前授業で、オリンピックやアスリートを誘致し、運動に対する意欲を高め体力向上につなげる。
- ・授業の中で体験的な活動をし、それについて考えをまとめる時間を設けることで、すすんで発信する態度や表現力を育てる。

イ 道徳科

- ・各教科及び領域の指導と関連付けた授業を行い、児童の人権感覚や規範意識を養う。
- ・考え、議論する授業を通して児童の道徳的な思考力・判断力、実践意欲と態度を育む。

ウ 外国語活動

- ・外国語による日常生活に結び付いた対話を中心としての言語活動を重点に置き、外国の言語や文化に対する関心を高め、外国語でのコミュニケーションを図る素地を養う。
- ・ALT や外国語にふれる機会の創出事業を効果的に活用して、児童が多様な言語や文化にふれる機会を設ける。
- ・授業の中で体験的な活動をすることで、外国語で表現することの楽しさを味わわせる。

エ 総合的な学習の時間

- ・地域の教育力を生かした問題解決的な学習を通して、自ら学び、考え、主体的に判断してよりよく問題を解決しようとする力を育む。
- ・問題解決の過程において学校図書館等や ICT 機器等を活用し、情報活用能力の育成を図る。
- ・学校図書館等を活用して学ばせ、その成果物として、3年生及び4年生全児童の作品を「図書館を使った調べる学習コンクール」に出品する。
- ・オリ・パラ教育で育む資質「障害者理解」について、「福祉・健康」と関連して学習させる。

オ 特別活動

- ・学級活動、児童会活動等において、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする実践的な態度や健全な生活態度を養う。
- ・学校行事を通して、集団への所属感や連帯感をもたせ、協力して物事に取り組んでいこうとする態度を養う。
- ・「学校 2020 レガシー」として、4年生は特別活動の時間に「ボッチャ」に取り組む。